

---

# 地方から始まる新たな交通政策を考える

---

2018.2.20

富山大学副学長

京都大学名誉教授

中川 大



# 1. 右肩下がりの時代は終わった

## 公共交通をとりまく近年の社会環境

- モータリゼーション(自動車保有率・免許保有率等の増加)は、10年以上前に頭打ち。
- 高齢化・少子化はプラスとマイナス。一方的なマイナスではない。
- 環境志向・健康志向の高まり。観光・インバウンド等の増加。
- 大規模道路整備も多くの都市でほぼ終結。

下がることが必然であった時代はとっくに終了している。

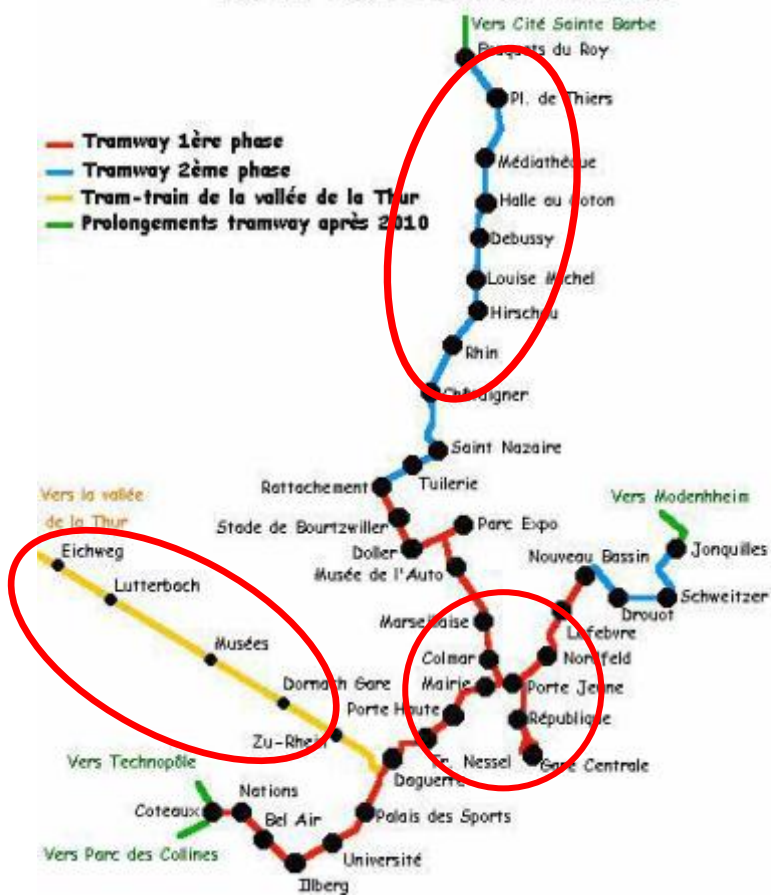
## 2. 先行する国々の成功要因

- ダイヤ改革等による利便性の大幅向上
- 行動改革を促す政策的運賃
- 駅・車両等の近代化・魅力向上
- 情報化・IT化
- 沿線都市の賑わい創出

### 3. 都市構造の変化と公共交通政策

公共交通を軸として、沿線に街を育てる

Réseau Tram-Train de Mulhouse



新しい視点からの都市交通政策

富山市の都市交通政策

## 4. 小さな改善から大きな改革へ

### 地域の意欲と交通改革

- 公共交通は大変厳しい。  
どうしたらよいか???

⇒ 旧来型発想の意欲に欠ける地域・事業者

- 公共交通に強い追い風。  
今が一番面白い。

⇒ 新しい発想の意欲的な地域・事業者

### 環境の時代・高齢化の時代は公共交通に追い風

「不便だから乗らない、乗らないから便利にできない」

「~~にわとりかたまごかの悪循環?~~」

⇒「先に便利にして利用を増やす」ことによって脱却。

★自治体が主体的に取り組めば、十分可能。

## 5. おわりに

「公共交通右肩下がりの時代は終わった」

- 交通に対する既成概念から脱却したところでは  
変革が起こっている。
- 適切な展望を描き、適切な政策を実行する必要。
- 路線やダイヤの設定において最大限の利便性向上を目指す。  
情報提供・デザイン改良など様々な工夫を実行。
- 事業者に頼るのではなく、行政が主体的に取り組む。  
既存事業に補助金を出し続けるだけでは改善されない。  
適切な知識を有し、成功実績のあるアドバイザーの参画。

地方にこそ大きな変革の可能性